

OurTV：グループで共有している情報を利用したテレビ番組の自動生成

石澤 恵 (指導教員：渡辺 知恵美)

1 はじめに

近年、携帯電話・PCの普及やインターネットの発達によって、友人や会社での連絡をそれらの情報機器で受け取ることができる。また、グループウェアやSNSなどのサービスが数多く提供されており、グループで情報を共有できる手段が豊富になった。

しかしながら、実際に人同士で顔を合わせて会話をして連絡したり、相談することもまた同様に大事である。例えば、毎日メールを大量に受け取る人がうっかり発表後の打ち上げパーティの連絡事項を読み飛ばしてしまった場合でも、事前にメンバーとの会話でその話が出て助かるというケースも考えられる。また、休憩中の会話の中で、謝恩会をまだ企画していないことを思い出すケースも考えられる。我々は、このような「複数のメンバーが同じ場所で同じ情報を受け取ることによって情報共有をより強固にする」効果を促すツールとして、グループで共有している情報を利用したテレビ番組 OurTV を提案する。OurTV は、グループで共有しているデータであるメーリングリスト・twitter・スケジュール・写真・動画などといった情報を利用し、イベント情報や連絡事項をテレビ番組独自の演出を交え放送する。その番組を複数人が一緒に視聴しながら会話をする事で、記憶がより定着することが期待される。

2 OurTV の想定する状況

本研究にて、想定する小規模グループは、人数は3名から10数名程度を想定する。小規模グループには、専用のメーリングリストとスケジュール共有システムがあるとする。さらにメンバー同士はtwitterを利用しており、写真や動画を頻繁に撮り、共有している。また、テレビが設置されている休憩スペースを有しており、小グループメンバーが集まる環境となっている。

3 放送パッケージ

OurTV における放送スケジュールの構成を図1に示す。本研究では、一連の番組の放送期間を「シーズン」と呼び、1回1回の放送内容を「放送」、シーズン中での放送の時期のひとくくりを「フェーズ」とする。

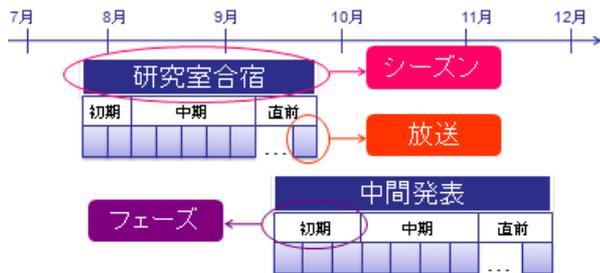


図1: シーズン・フェーズ・放送の定義

OurTV では、番組内容のフォーマットをシーズンの種類ごとに用意する。これをパッケージと呼ぶ。パッ

ッケージには、シーズン開始およびシーズン中の各フェーズの期間を決定するためのルールと、各フェーズで放送する番組の台本フォーマットなどが用意されている(図2)。

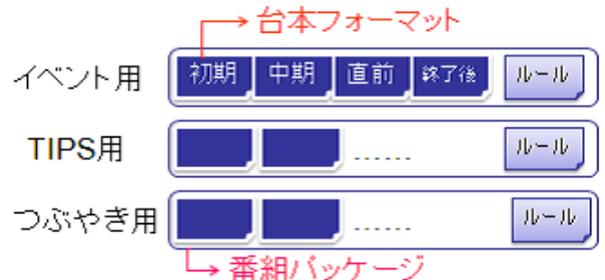


図2: 番組パッケージと台本フォーマットの例

ここでは例としてパッケージ「イベント」について説明する。パッケージ「イベント」はグループ内で定期的に開催されるイベントの企画や準備や参加を助ける番組である。例えば前回に行われた卒論発表に関するメールやツイート、写真を放映する。前回のイベントを懐かしむだけでなく、次回のイベントの企画開始のきっかけになったり、準備の参考することができる。1つのシーズンは、初期・中期・直前・終了後という4つのフェーズに分けられる。また、パッケージ「イベント」には、番組の対象となるイベントリストがあり、各イベントのイベント名と開催周期が定義されているとする。各フェーズの放映開始のルールと目的は以下の通りである(表1)。

表1: 各フェーズのルールと目的

フェーズ名	ルール	目的
初期	前回の開催から(周期-シーズン期間)日経過	イベントの準備の喚起
中期	次回開催の(a~b)日前	イベント準備の参考
直前	次回開催の(1~b)日前	イベント当日に向けての確認
終了後	次回開催のy日後	今回のイベントを振り返る

次に各フェーズにおける内容例を示す。ここではイベントパッケージによるイベント修論発表会の中期フェーズの番組を例とする。例えば、現在1月下旬となり、2月上旬に開催予定である修論発表会が近づいてきている状況にあるとする。CGキャスターがこのような具合に、去年の1月下旬に修論発表会に関する内容が書かれたメールやツイートを紹介する『去年の今頃はさんが修論発表会に関するこのようなメールを流しています。『こんにちは。修論発表会の事前練習をしませんか?空いてる日程を教えてください』また、さんは去年の今頃このようなつぶやきをしています。『発表練習は2/8がいいな...』次に、最近、修論発表会について書かれたメールやツイートも同様に紹介する『最近、xxさんがこのようなメーリスを流しています。『こんにちは。お疲れ様会を企画しようと思っているのです

が、皆さんの都合のいい日を教えてください』また、
 さんはこのようなつぶやきをしています。『今年は
 修論発表の後に M2 の先輩に花束渡すのかな?』こ
 のようにメリスやつぶやきの紹介が終わった後、最
 後にキャスターが「今年も色々準備をしていますね。
 楽しい修論発表会になるといいですね。」という言葉で
 締める。放送では背景に、前回の修論発表会の様子
 の写真を流す(図 3)。



図 3: 中期フェーズの具体例

4 番組作成システム

番組を作成するためのシステムの流れを図 4 に示す。

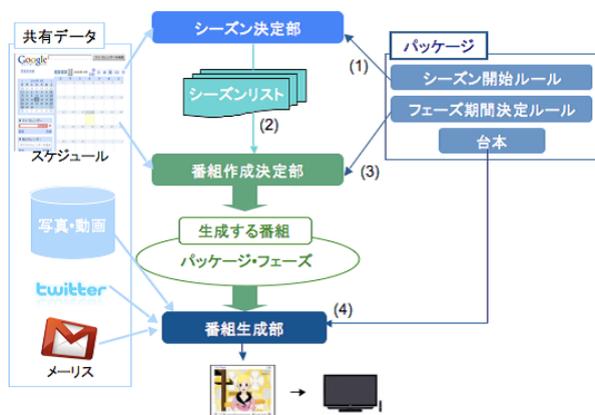


図 4: システムの流れ

以下、システムの流れを説明する。

(1) スケジュールテーブルとシーズン開始ルールを照らし合わせ、シーズンを開始するイベントがあるかどうかを 1 日 1 回問い合わせる。

(2)(1) でシーズンを開始するとされたイベントのシーズンを新たに作成する。

(3) スケジュールテーブルとフェーズ期間決定ルールを照らし合わせ、放映するパッケージとフェーズを決定する。

(4) 該当する台本を読み込み、そこに共有データを合成して台本を作成し、それを元に番組を作成し、放映する。

5 実験

我々が所属する研究室(8名)を対象にイベント「修論発表会」の番組を週 1 回で計 3 回放映し、OurTV の効果を測った。アンケートの結果、放送内容が今回のイベントの準備において全員から「参考になった」という回答が得られた(表 2)。

表 2: 各フェーズのルールと目的

回答項目	人数
とても参考になった	9名
まあまあ参考となった	10名

また、被験者にはこの番組で放送した情報のうち、参考になった情報を具体的に書いてもらった。参考になった情報の具体例は以下の通りであった。

- ・メリスで見逃した情報(お疲れさま会の日程調整の件)を再確認できた。
- ・修論発表後に M2 の先輩に花束を贈るなどの例年のやり方を気づかせてくれた。
- ・予備審や発表練習のことに先輩のやりとりなどを見ることで今後の予定をたてるきっかけになった。
- ・先輩がどのように予備審の準備をすすめていたかが分かり、そろそろパワポを作らねば!と思った。
- ・テレビで自分の流した情報が放送されることを意識するようになり、自分から情報を積極的に発信しなくなった。

・最近 twitter でつぶやきをしていないことに気づき、もっとつぶやこうと思った。

・テレビで自分の情報が流れるので、メリスやつぶやきの書き方をこだわろうと思った。

ここから OurTV は、情報の再確認や今後の予定を立てるきっかけを与えるものとして役立つと言える。また、ユーザが発信する情報をそのまま番組で取り上げるにより、ユーザがより積極的に情報を発信するきっかけにもなっている。

6 まとめと今後の課題

本稿では、メーリングリストやスケジュール、写真や動画のデータの集まりから、適当なデータを抽出し、それをもとにテレビ番組の台本を自動作成し、テレビに配信するシステムについて記述した。また、作成したテレビ番組を視聴してもらい、アンケートに答えてもらうという実験を行うことで、OurTV の効果を測った。これからはさらに番組内容を改良し、よりユーザに情報が伝わりやすい番組の作成を目指す。また、番組を放映する時間帯を決定するプログラムなどの実装を行っていく予定である。

参考文献

- [1] T2V -text to vision-
<http://t2vlab.jp/>
 [2] 渡辺知恵美, 阿部真理子: "スマートハウスで共有する家庭情報の効果的な提示方法", DEWS インタラクティブセッション A8-5 (2008)